

第3回肱川橋周辺まちづくり検討委員会

議事次第

日時：平成23年 7月28日（木）13：30～15：00

場所：大洲河川国道事務所 2階会議室

（進行）大洲河川国道事務所 計画課長

開会

主催者挨拶 大洲河川国道事務所長

委員紹介 (事務局)

委員長挨拶 柏谷委員長

議事

1. これまでの委員会のおさらい

2. 橋梁デザイン等の検討

- ・桁下の見え方
- ・水位観測所デザイン
- ・親柱デザイン

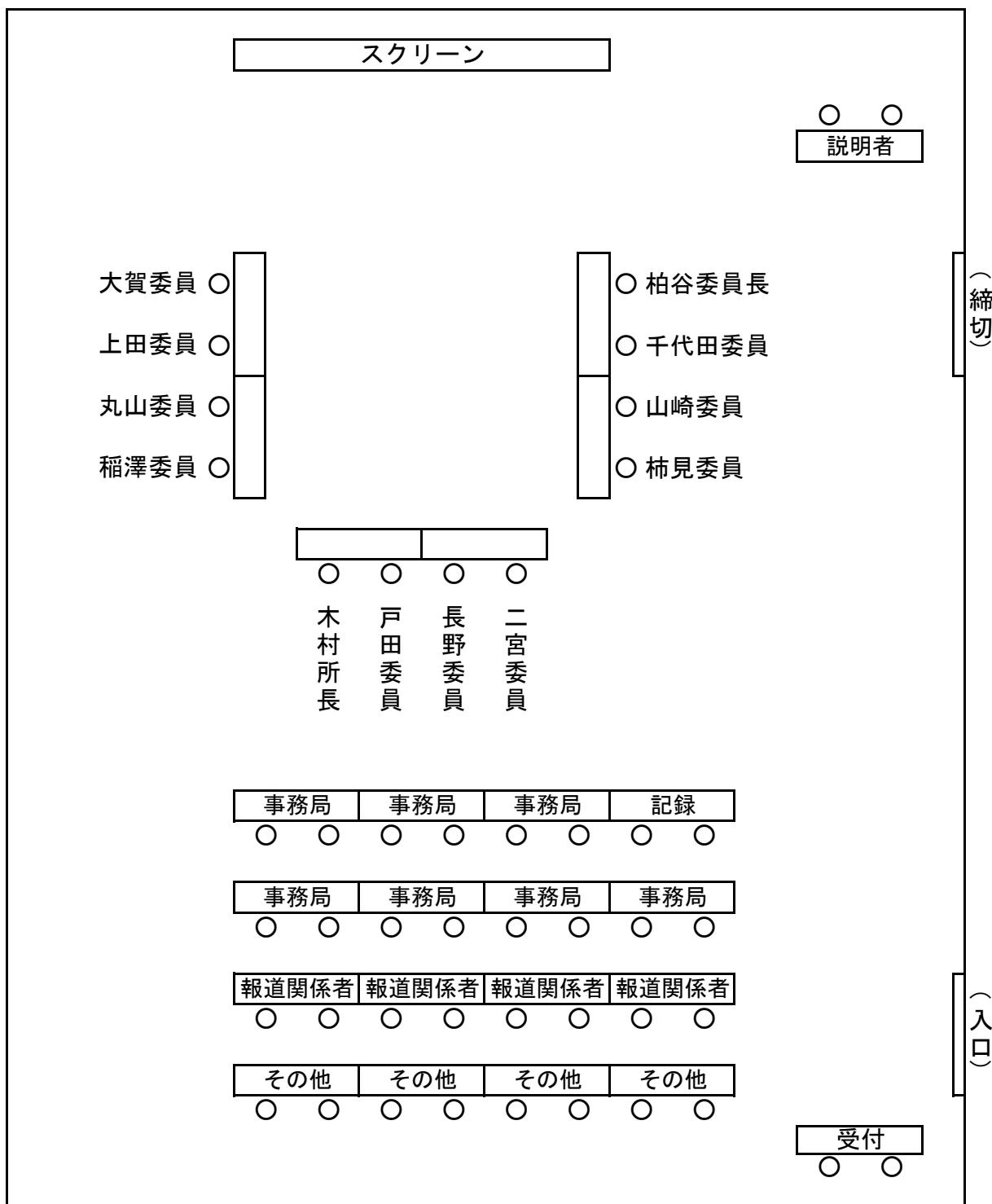
3. 街路デザイン【参考】

4. 質疑応答

閉会

第3回肱川橋周辺まちづくり検討委員会

席 次 表



An aerial photograph of a residential area, likely in Japan, showing numerous houses with blue roofs. A river flows through the center, with a large bridge spanning it. In the background, there are more residential areas and some industrial buildings.

肱川橋周辺まちづくり検討委員会

第3回 説明資料

国土交通省 大洲河川国道事務所

平成23年 7月28日

目次

1. これまでの委員会のおさらい
2. 橋梁デザイン
3. 街路デザイン【参考】
4. 質疑応答

§ 1. これまでの委員会のおさらい

■ 主な検討内容

第1回（平成21年9月8日）

- ・委員会発足にあたって
- ・**橋梁架替事業の必要性の確認**
- ・設計条件の確認
- ・**デザインコンセプトの設定**



第2回（平成21年12月18日）

- ・第1回検討委員会のおさらい
- ・**橋梁形式の選定**
- ・歩行者空間のデザイン検討
～橋上空間のデザイン検討～
～街路空間のデザイン検討～



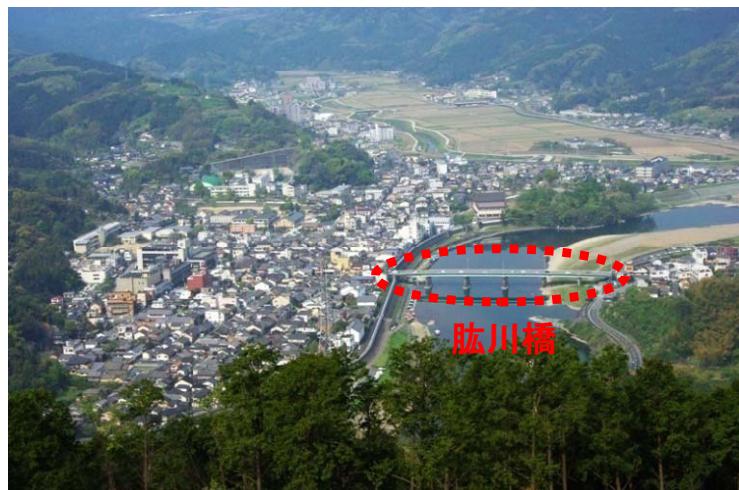
§ 1-1. 事業の目的・内容

■ 事業の目的

- ・現橋の耐震性能不足の解消
 - ・現橋の河積阻害を解消し、肱川の治水上の安全性の向上
 - ・歩道の拡幅による、歩行者・自転車の走行安全性の向上

■ 事業内容

- ・平成21年度～ 橋梁架替事業
 - ・平成23年度～ 胴南地区－歩道整備事業および交差点改良事業



§ 1-2. 事業地の概要

■ 大洲市景観計画における「景観計画区域」に該当

【肱川橋】

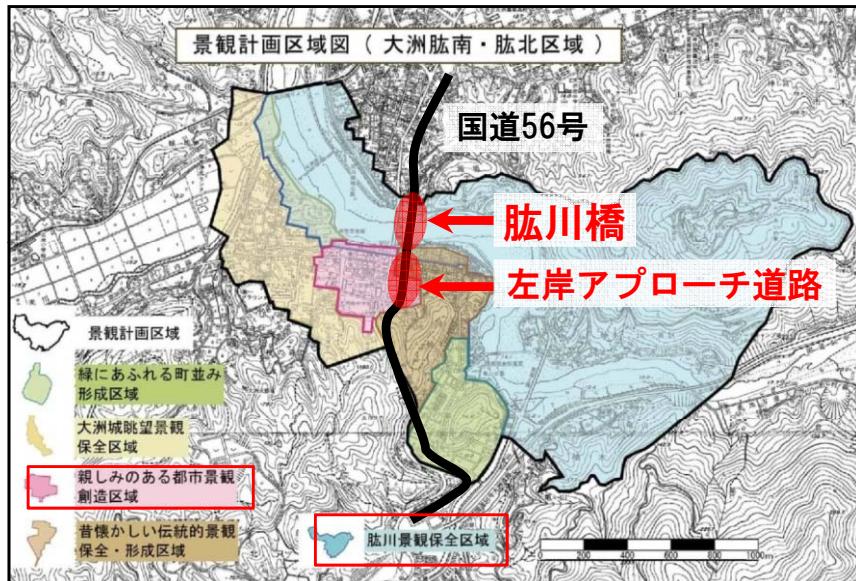
【肱川景観保全区域】要約

「大洲城や修景護岸の織り成す景観」や「水と緑の調和した美しい景観」、周囲の緑の保全とそれに調和した景観を創出する区域

【左岸アプローチ道路】

【親しみある都市景観創造区域】要約

商店街を中心に、親しみやすく美しい都市景観の創出に取り組む区域



大洲市景観計画「景観計画区域図」より

■ 同様に国道56号が「景観重要公共施設」に該当

各景観検討区域の方針に基づき、町並み景観等をより良い方向へ導くような先導的整備に努める。

§ 1-3. デザインコンセプトの設定

① デザイン方針

■ 周辺の景観等への配慮の考え方

- 架替え橋は、修景護岸の高さを超えない**控え目な形態**とし、大洲城や豊かな周辺の自然景観に融合したデザインとする。



- 橋上空間やアプローチ道路(歩道)は、地域の歴史・文化をより良い方向に導く**先導的整備に努め**、使い易く美しい、将来を見据えたまちづくりに貢献する。

※「大洲市景観計画」より抜粋

「親しみのある都市景観創造区域」の町並みのイメージ



■ その他

- ・ 日常的な通勤、通学路としての利用に配慮する。
- ・ 河川でのイベントに配慮する。

通学の様子



河川でのイベント
(鵜飼い)



② デザインコンセプト

風景：歴史と緑に囲まれた河畔を引き立てる控え目な橋

橋上：どこからでも安心して景色や雰囲気を楽しめる橋

街路：地域の大動脈に相応しい風格と憩いのある道

§ 1-4. 委員会検討内容のまとめ

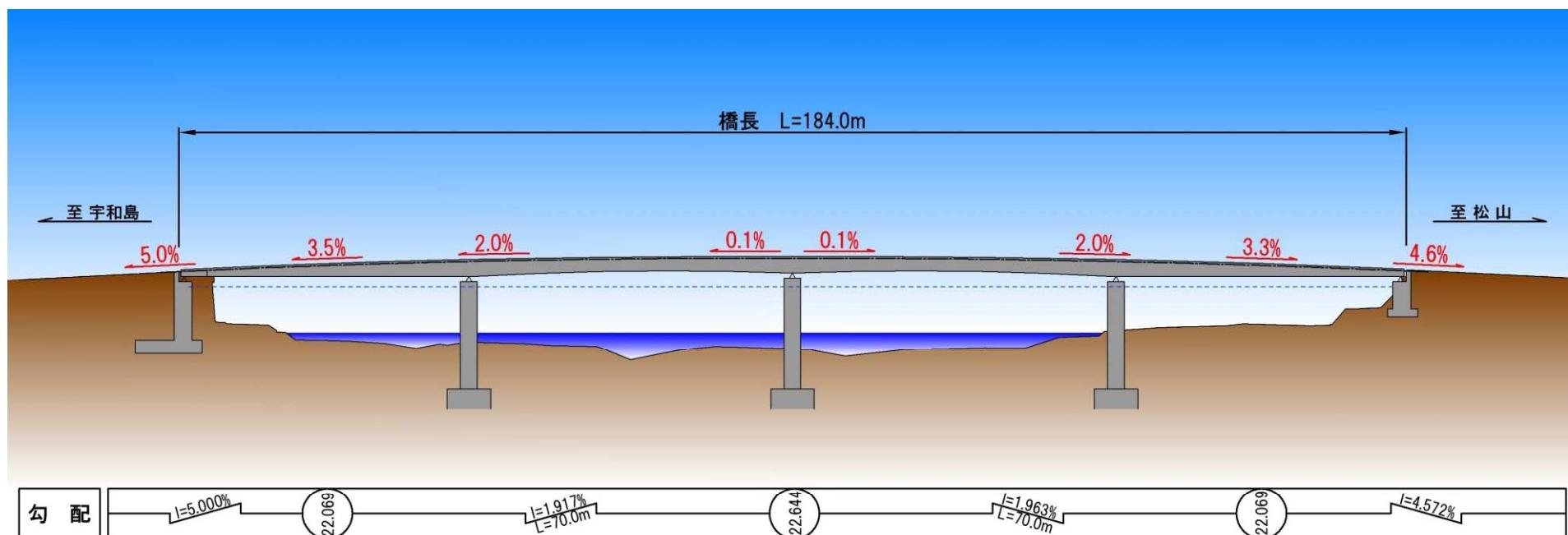
検討内容		結果	
橋梁本体	勾配	バリアフリーに配慮して5%以下 (現況最急5.0%)	了承
	幅員	歩道を拡幅 (現状1.75m→整備後3.0m)	了承
	橋梁形式	4径間の桁橋	了承
	桁裏	川沿いの遊歩道など下からの見え方に配慮	継続して検討
橋上空間	車両防護柵	既製品から選定	了承
	高欄	肱川にちなんだオリジナルデザイン	了承
	親柱	肱川にちなんだオリジナルデザイン	継続して検討
	道路照明	橋脚位置に配置(千鳥配置)	了承
	車道舗装	標準アスファルト舗装	了承
	歩道舗装	アプローチ道路(まち並み)に配慮	継続して検討
水位観測所		川との一体感に配慮	継続して検討

§ 1-5. 橋梁本体のデザイン

① 橋梁計画

■ 縦断線形

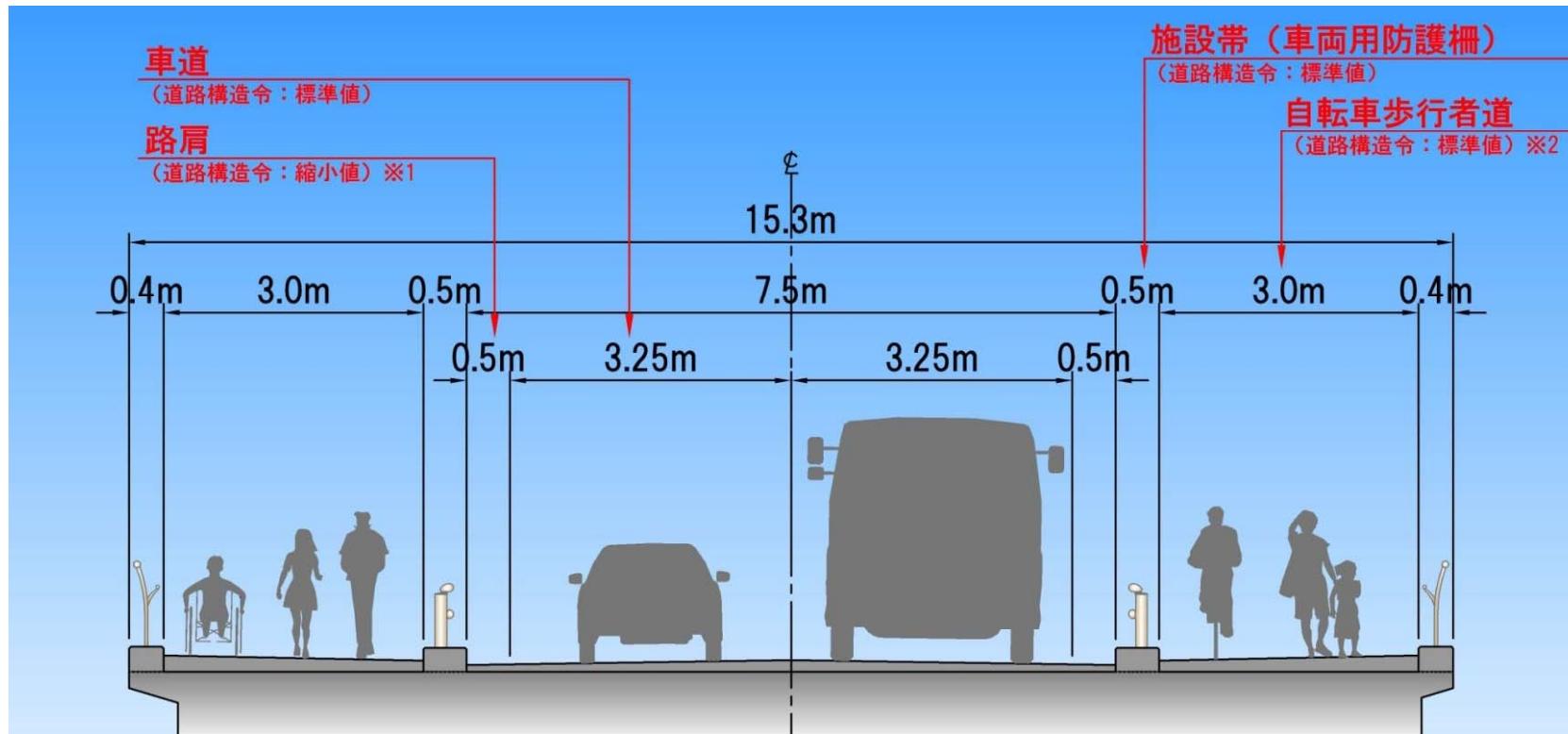
- 各種法令に順守した上で、アプローチ道路への嵩上げの影響が少ない勾配とした。



勾配は国土交通省令※に基づき、**5%以下**（現況最急5%）としました。

※バリアフリー新法に基づく国土交通省令「道路移動等円滑化基準」に準拠しています。

■ 幅員構成



※1. 路肩

標準値は $W=0.75m$ 。ただし、長さ50m以上の橋梁では、建設コスト縮減の観点から、縮小値を用いる。

※2. 自転車歩行者道

繁華街や駅周辺など歩行者交通が多い場合は $W=4.0m$ 、それ以外の区間では $W=3.0m$ となる。

なお、 $W=3.0m$ とは、自転車1台と車いすどうしのすれ違いが可能な幅を示す。

(※参考「占有幅の考え方」人は0.75m、杖使用者は0.90m、自転車・車いす・シニアカーは1.00m)

歩道幅員を拡幅（現状1.75m → 整備後3.0m）しました。

② 橋梁形式

2径間 斜張橋

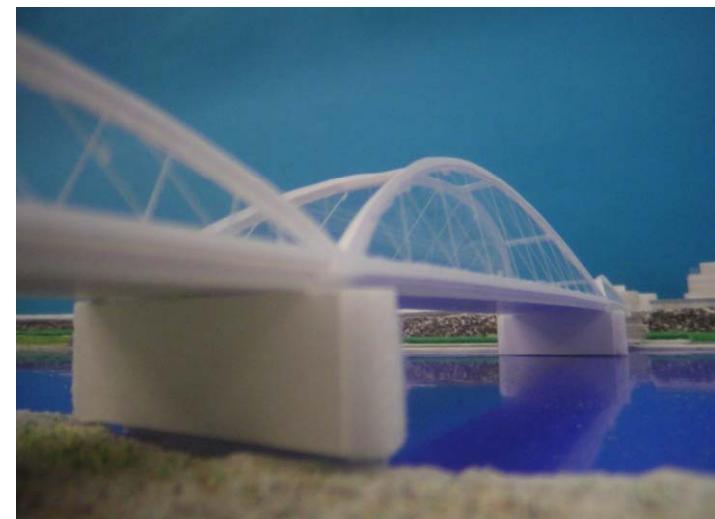
左岸上流より大洲城



右岸下流より



3径間 アーチ橋



橋梁単体のデザインが近代的でシャープな印象で、その存在感も巨大である。

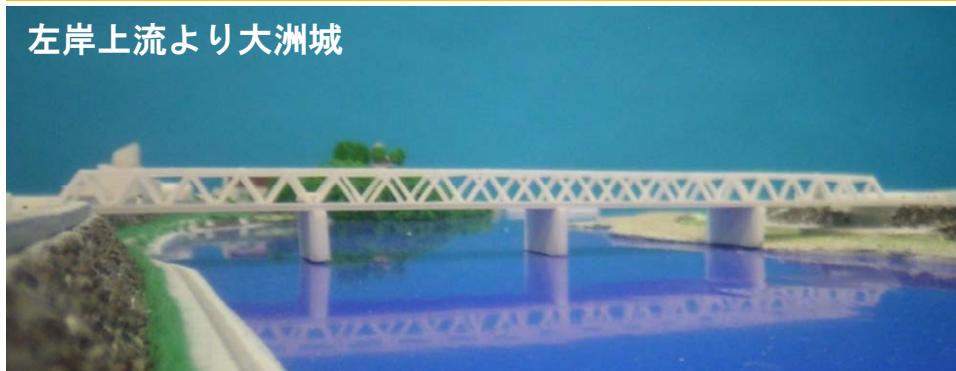
「歴史と緑に融和」させたい本橋のコンセプトには合致しない。

橋梁単体のデザインは自然景観と調和するが、個性ある存在感となる。

「河畔を引き立てる控え目な橋」としたい本橋のコンセプトには合致しない。

4径間 ト拉斯橋

左岸上流より大洲城

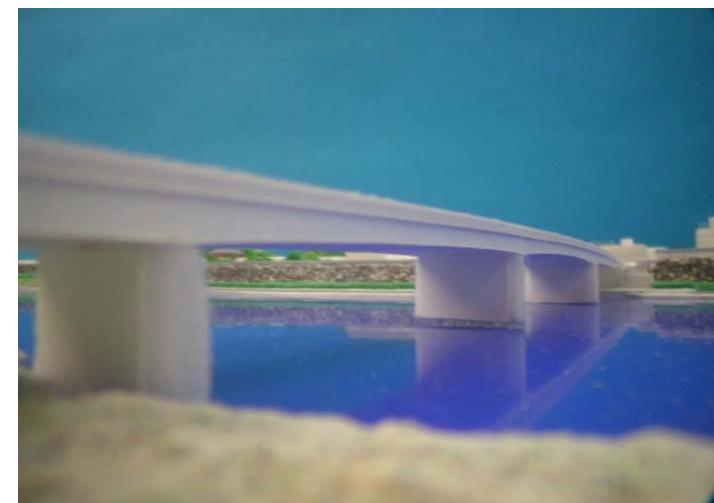


右岸下流より



橋梁単体のデザインは初代・2代目の姿を彷彿させ、「控え目な橋」としたい本橋のコンセプトにも合致する。道路利用者には煩雑感、雪害等の影響が生じる。

4径間 柄橋



「歴史と緑に囲まれた河畔を引き立てる控え目な橋」に最も合致する形式である。道路利用者にとっては、周囲景観を眺める舞台として煩雑感等の違和感がない。

■ 比較

	2径間一斜張橋	3径間ーアーチ	4径間ートラス	4径間ー桁橋
模型写真				
構造性	<ul style="list-style-type: none"> △現地盤への影響削減から鋼床版とするため、疲労・腐食耐久性に留意が必要 △吊り構造のケーブル取付部等の疲労に留意 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> ○鋼・コンクリート合成構造のため耐久性に優れる ○3脚分散固定のため、耐震性に優れる ○3脚固定のため耐震性に優れる
施工性	<ul style="list-style-type: none"> ○鋼部材中心のため、現場施工が比較的少なく工期が短い 	<ul style="list-style-type: none"> ○同左 	<ul style="list-style-type: none"> ○同左 	<ul style="list-style-type: none"> △コンクリート床版工の他は、鋼橋案と同様である
走行性	<ul style="list-style-type: none"> △鋼床版のため冬季の路面凍結、桁の振動等の懸念がある 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリート床版のため、振動が少なく、走行性に問題はない
維持管理性	<ul style="list-style-type: none"> △定期的な塗り替え、路面凍結防止対策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> △同左 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリート床版のため、路面凍結防止対策は不要
経済性	34億円	31億円	28億円	22億円

総合評価の結果、4径間ー桁橋を選定しました。

橋梁本体のデザイン検討結果



フォトモンタージュによる確認

§ 1-6. 橋梁付属物ほかのデザイン

① 防護柵のデザイン

■ 高欄

- ・本橋の特徴である周辺の豊かな自然環境を楽しめるような、開放感があり、地域性を醸成させるオリジナルデザインを採用した。

■ 車両防護柵

- ・車両衝突時の取り換えの可能性があるため、既製品より選定する。この内、歩道側（裏側）からの見え方が煩雑でない製品を採用した。

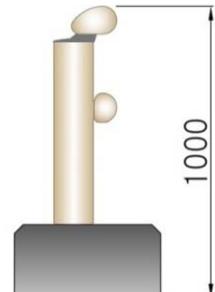
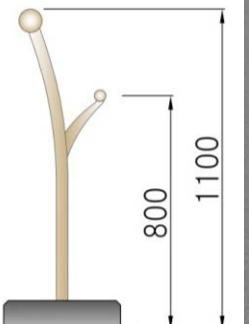
オリジナルデザイン高欄

(鶴飼いの竹をイメージし、開放感を表現)



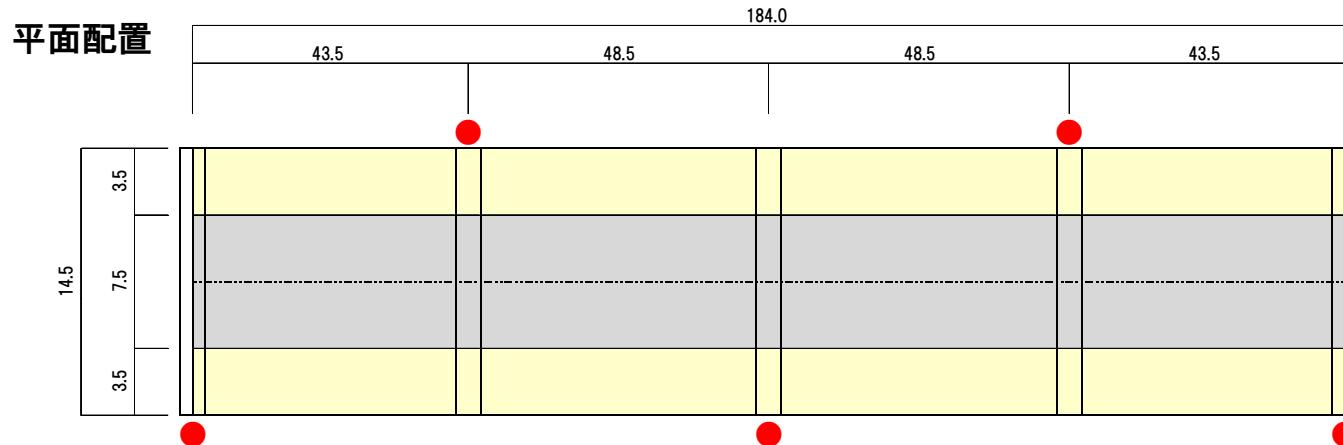
車両防護柵

(歩道側からの見え方が煩雑でない)



② 道路照明のデザイン

- ・平面配置は、外からの見た目に考慮し、橋脚位置への設置とした。
- ・照明柱の形状は、設置数を最小限とできるアーム柱とした。



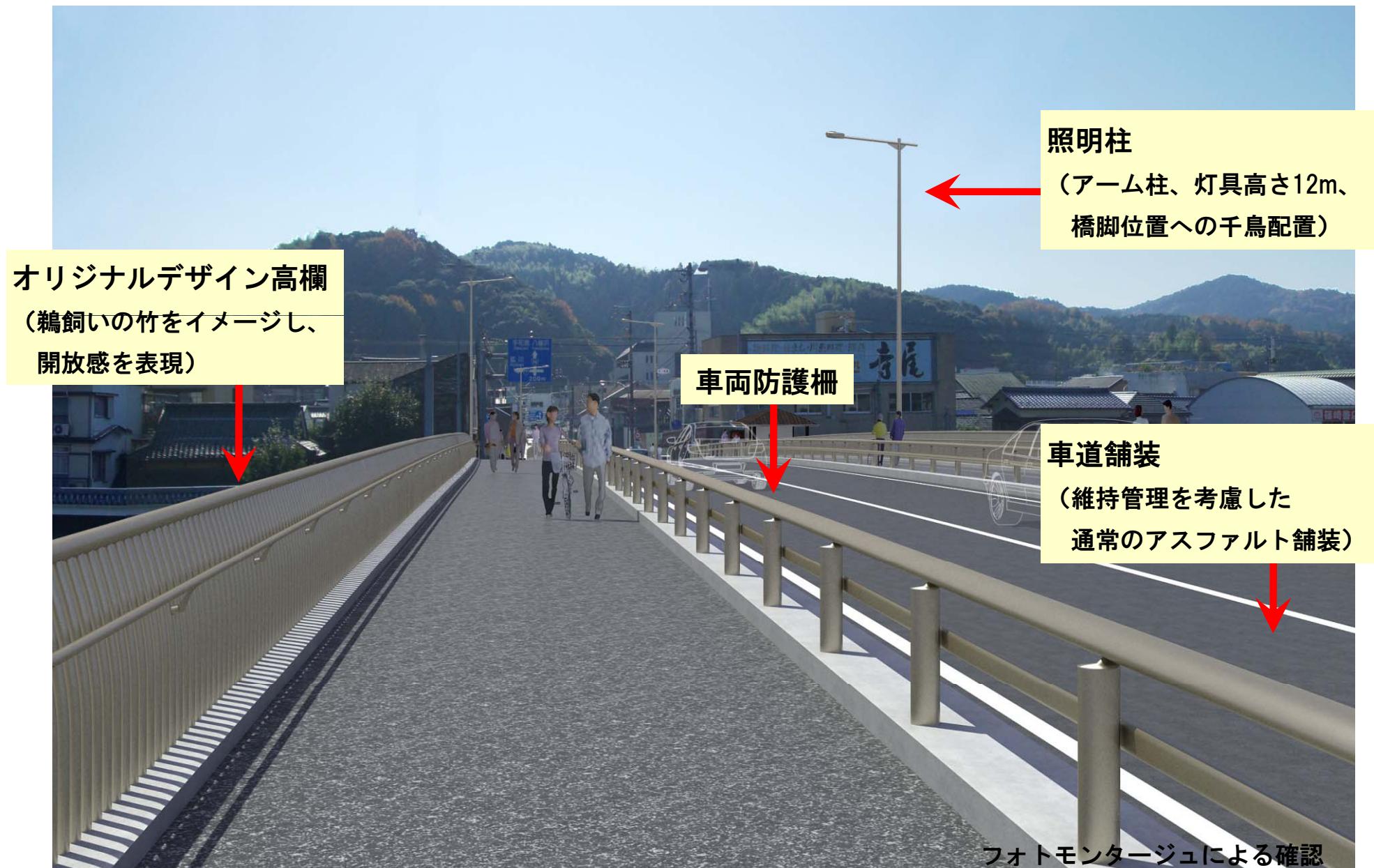
橋脚位置に合わせた照明配置



③ 歩道舗装

- ・「左岸アプローチ道路との関連から決定すべき」とのご提言を頂きました。次項で現在の考え方をご説明します。

橋面デザイン検討結果

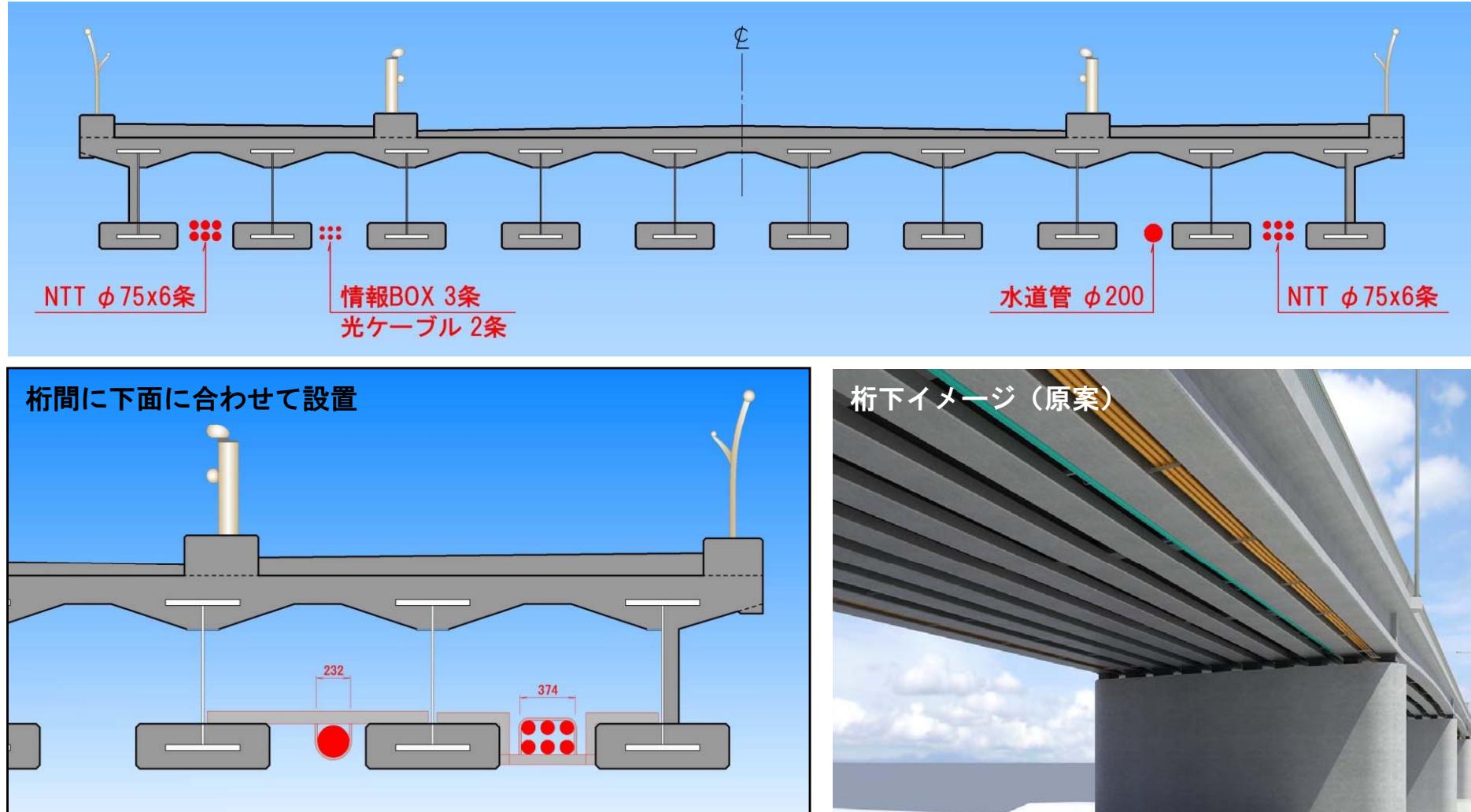


§ 2. 橋梁デザイン

橋梁本体に係わるデザインは、本委員会の中で決定していきます。

① 桁下の見え方（添架管）

- ・遊歩道など桁下からの視点があるため、管の添架方法に配慮します。



通常の視点から認識しにくいように、**桁内に收めます**（桁間に設置）。

1案：管を目立つにくい色彩とする



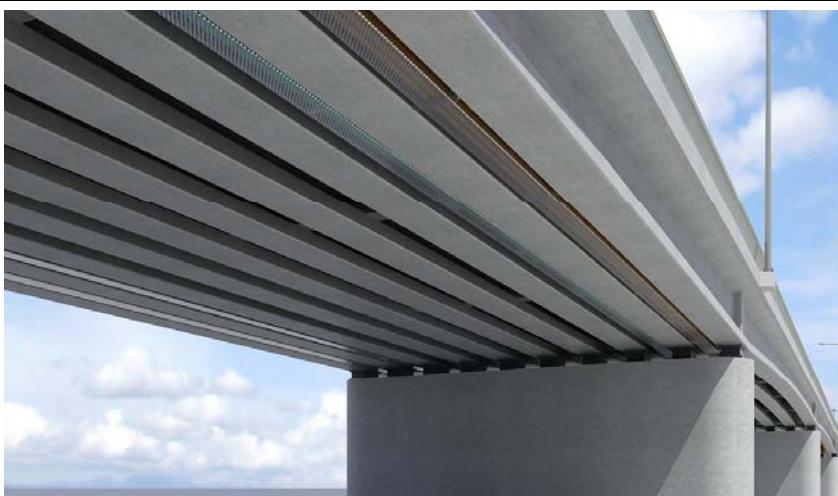
2案：パネル設置（全桁間）



3案：パネル設置（管の添架箇所のみ）



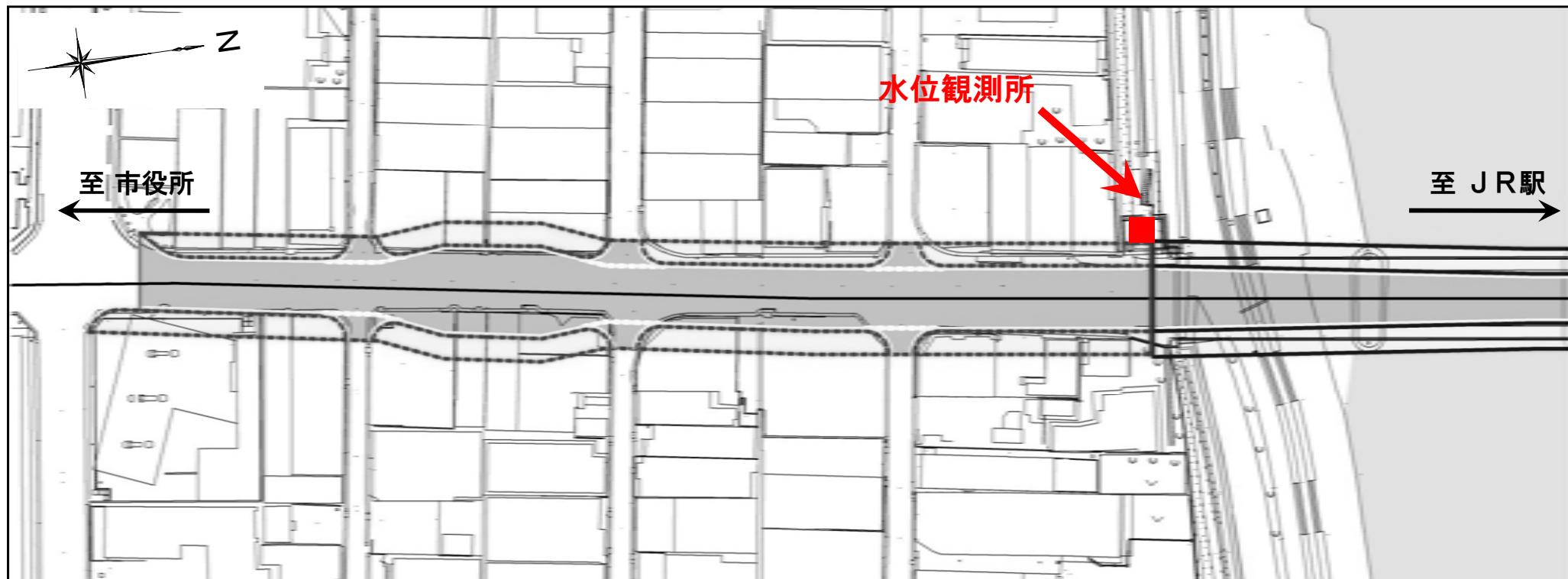
4案：パンチングメタル設置



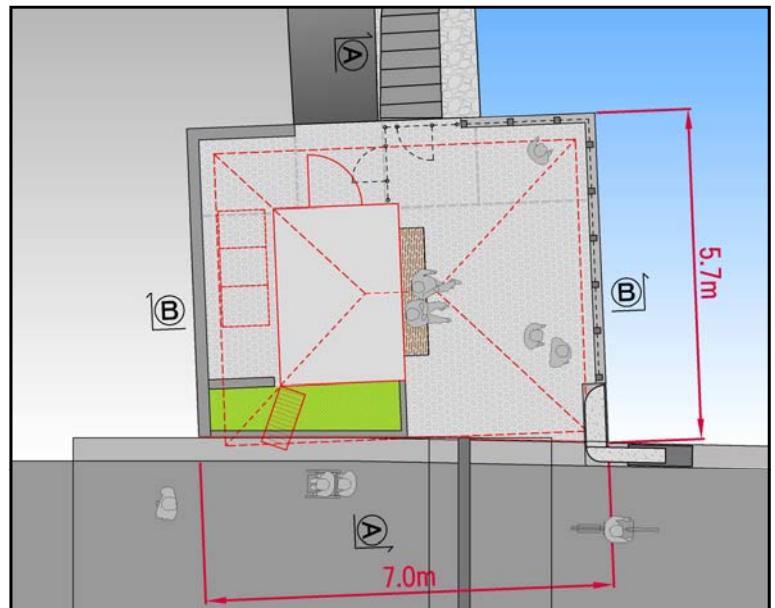
目立つにくい色彩とすることで、
通常の視点から気にならない存在とすることができます。

② 水位観測所デザイン

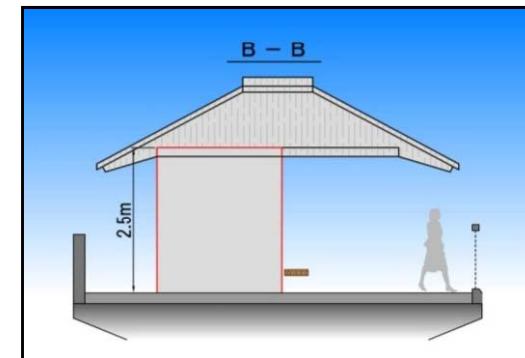
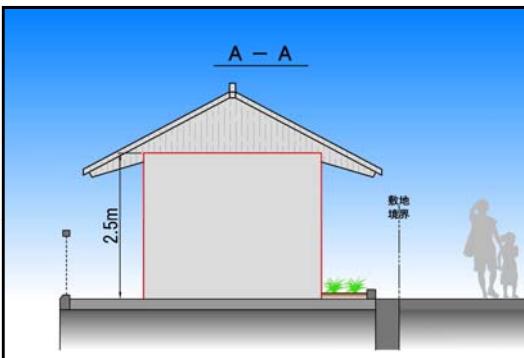
- ・河川管理施設としての水位観測機能を有しており、**観測及び維持管理に支障がない構造**とする必要があります。
- ・洪水時には**流量観測時の休憩所**、通常時には**歩行者及び周辺住民のお休み処**としての機能を有しています。



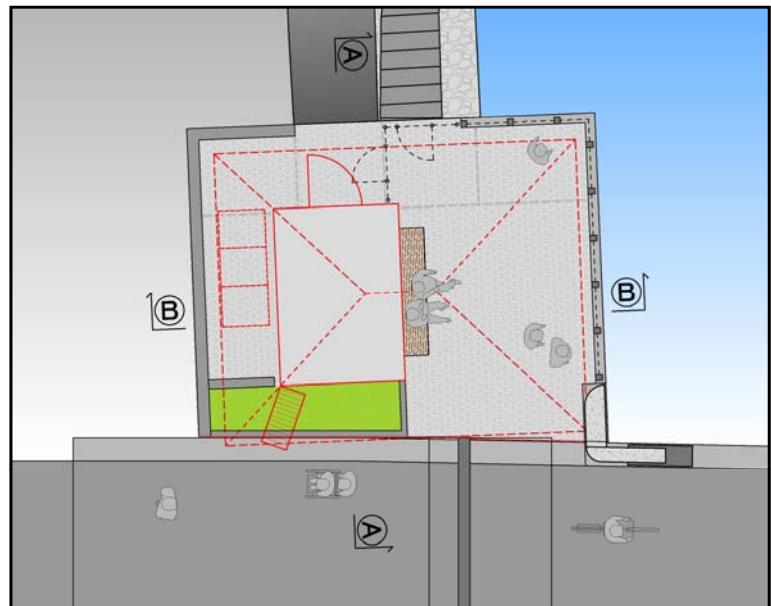
■ 1案【現況と同じく四阿を設置】



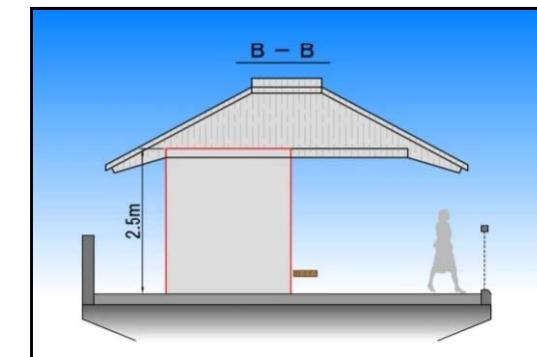
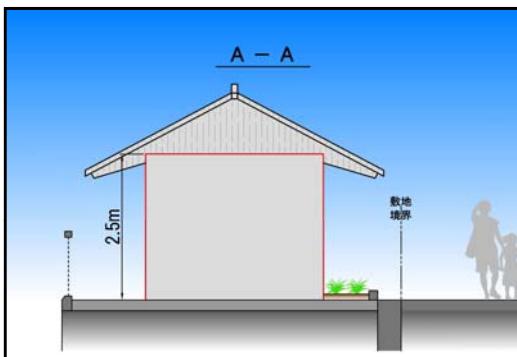
- ・現況と同様に四阿（あずまや）を備えた建屋とし、日除けを提供する案です。



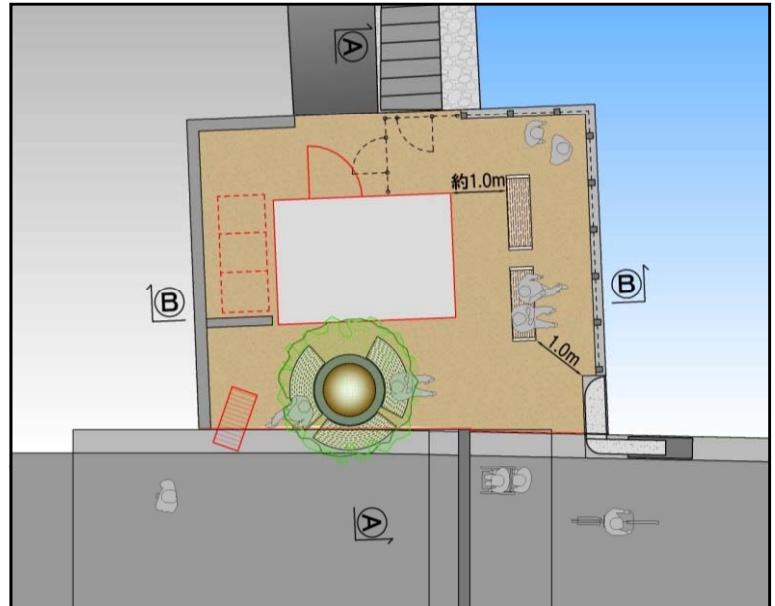
■ 2案【瓦屋根の四阿を設置】



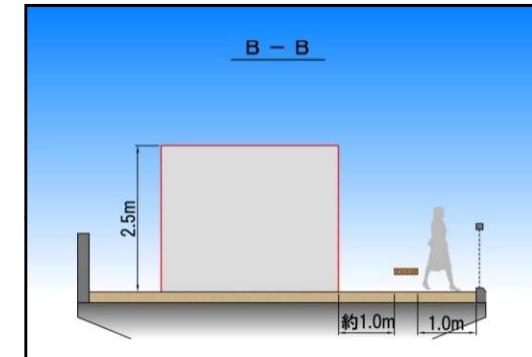
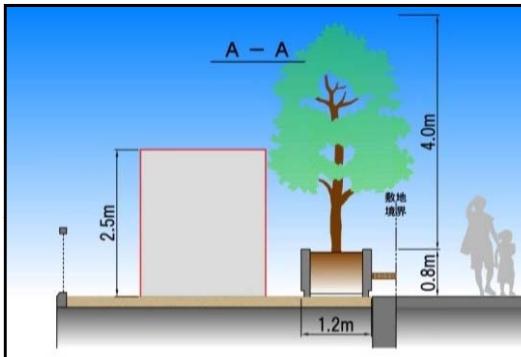
- ・現況と同様に四阿（あずまや）を備えた建屋とし、日除けを提供する案です。
- ・大洲城や修景護岸に合わせ、瓦屋根としています。



■ 3案【緑陰を提供する中木を設置】



- ・建屋は、一般の方に利用されるものではない管理施設のため、存在感を抑えた最小限の意匠とします。
- ・柔らかい印象を与える豆砂利による舗装とします。



■ 比較

	1案 現況と同じく四阿を設置	2案 瓦屋根の四阿を設置	3案 緑陰を提供する中木を設置
イメージ			
コメント	<ul style="list-style-type: none"> △一般的な屋根材の使用により、まち並みの統一が図れます。 △誘導性は、現状と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> △和風を強調した外観は、現状より誘導性を高めるものの、まち並みとの関連に留意が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中木が誘導性を高めて、緑陰が居住性の向上に寄与します。
維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的な維持管理は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同左 	<ul style="list-style-type: none"> △中木植栽は、車両による定期的な管理が必要です。
洪水時の作業性	○	○	×

現況通りの四阿（あずまや）の設置を基本に考えていきますが、ご要望のあった川への階段は、現況通り使用できる計画としています。

③ 親柱デザイン

- ・親柱は、高架橋や歩道橋などの一部を除いて、**橋のゲート**として日本
の**ほぼ全ての橋梁**において設置されている端部柱のことです。
- ・親柱が、橋梁の格を表すとも言われています。
- ・主な機能として、
「橋梁および河川の名称を示す」
「橋の前後で異なる防護柵（形状や高さ）を留める」
「防護柵の端部を収める」があります。



▲木橋の親柱



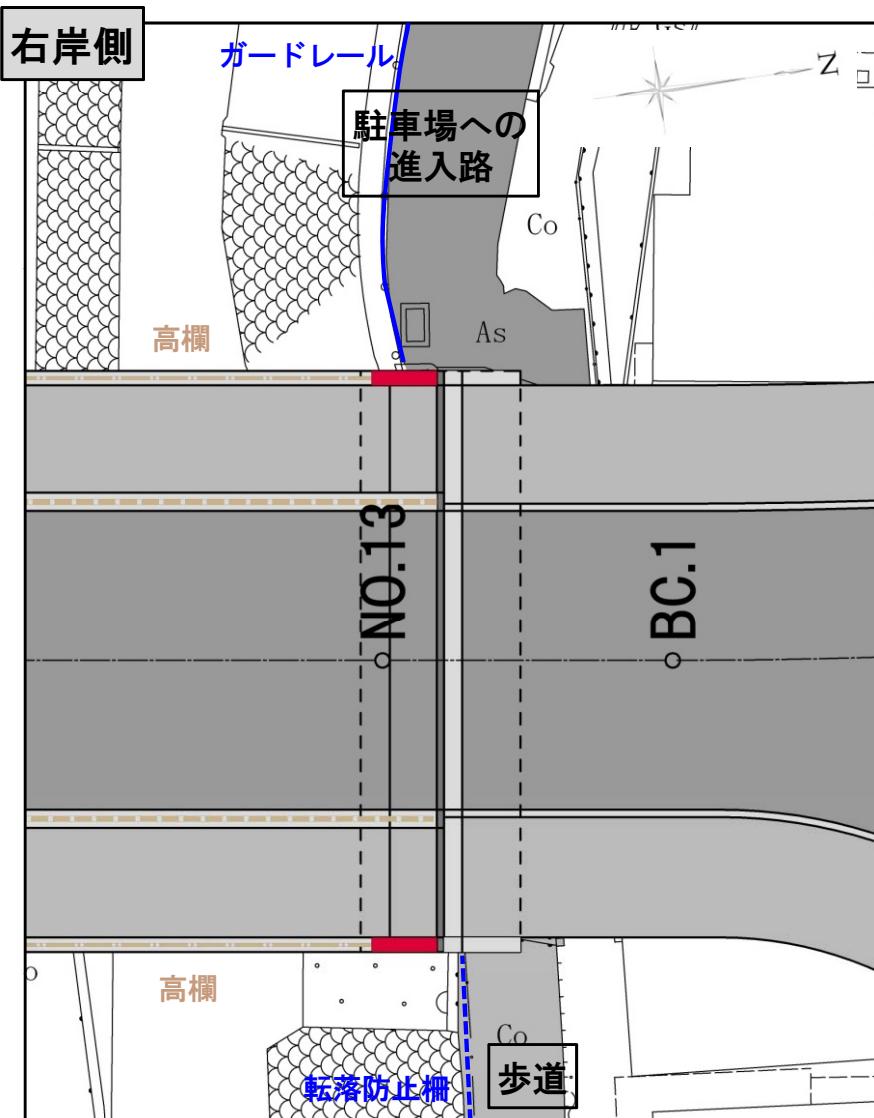
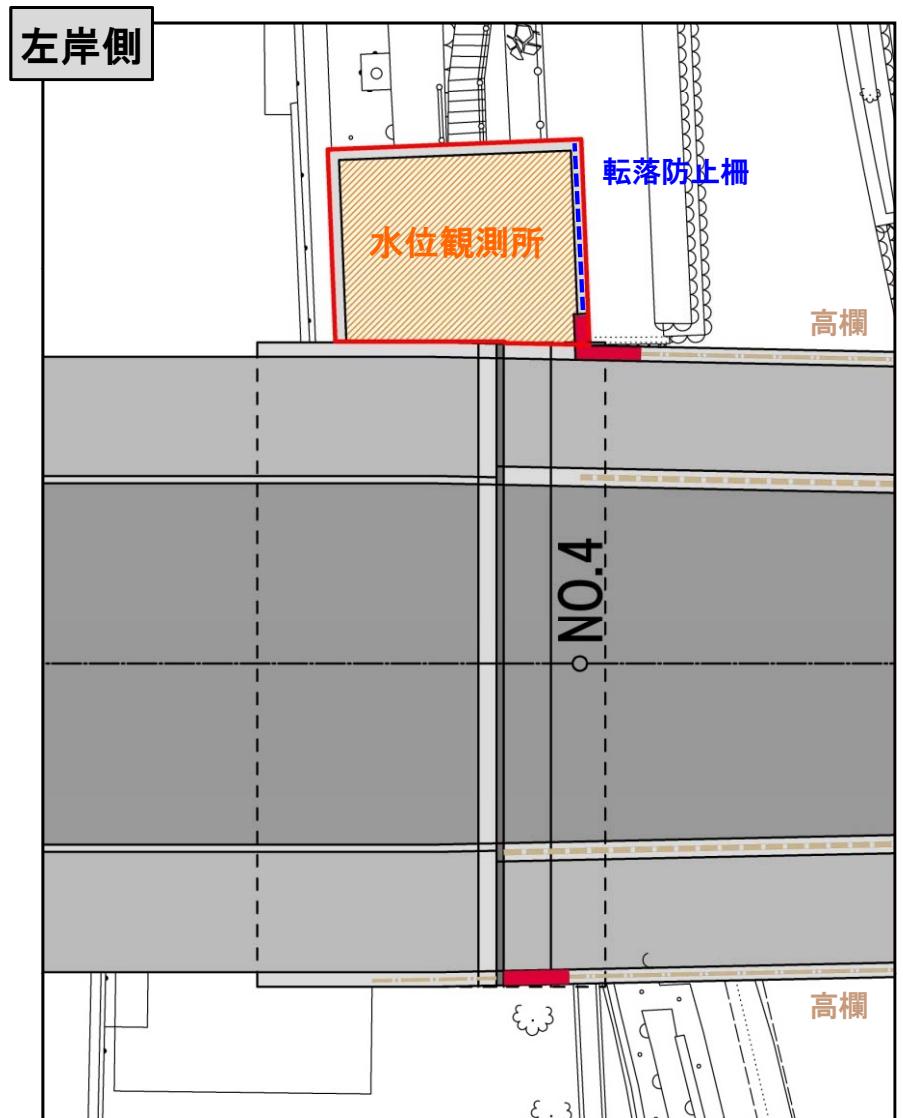
▲神社の玉垣



現在の親柱
(1.0m×1.0m, コンクリート製)

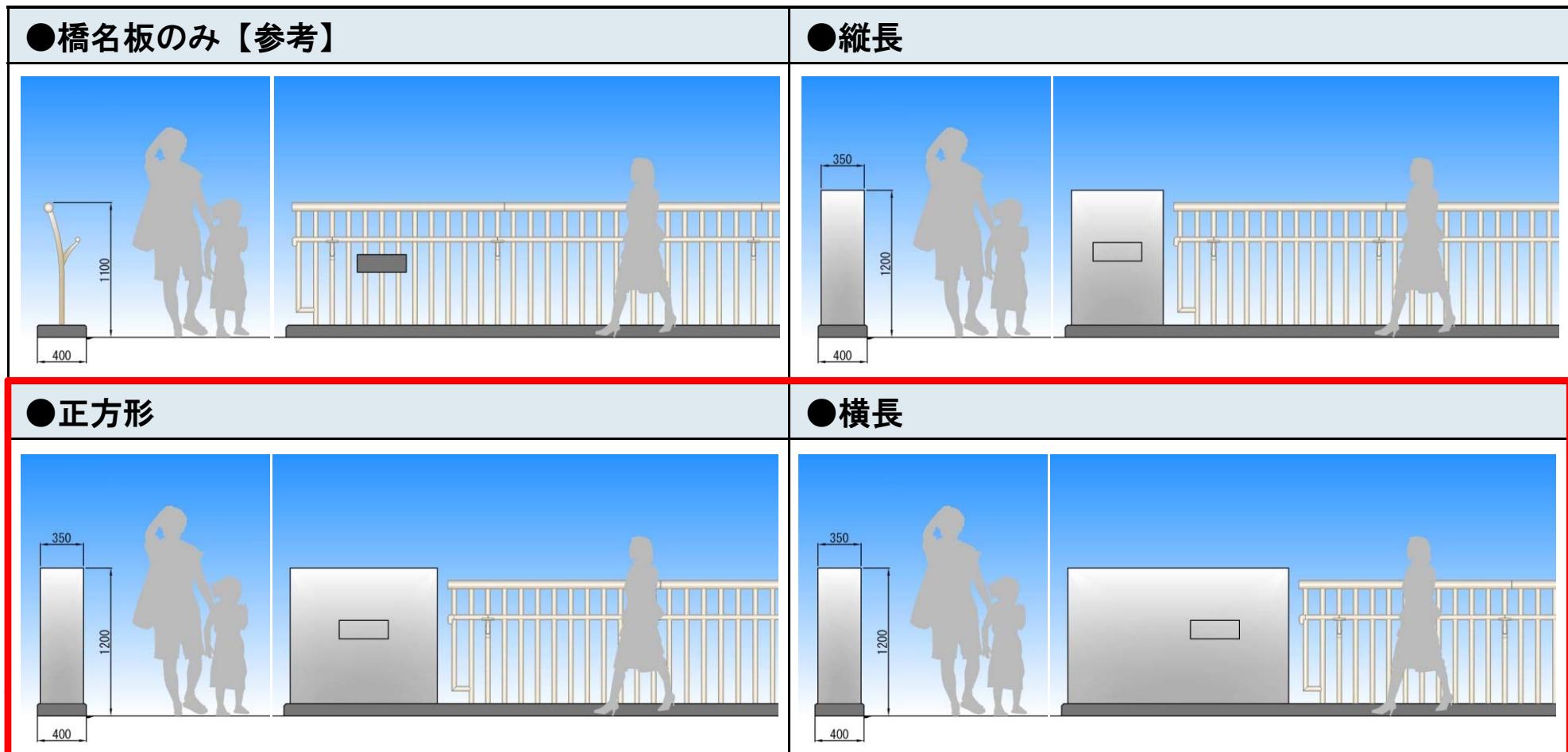
■ 設置位置

- ・ 基本的に**桁端に設置**します。
- ・ ただし、橋詰広場がある場合はL字型とします。



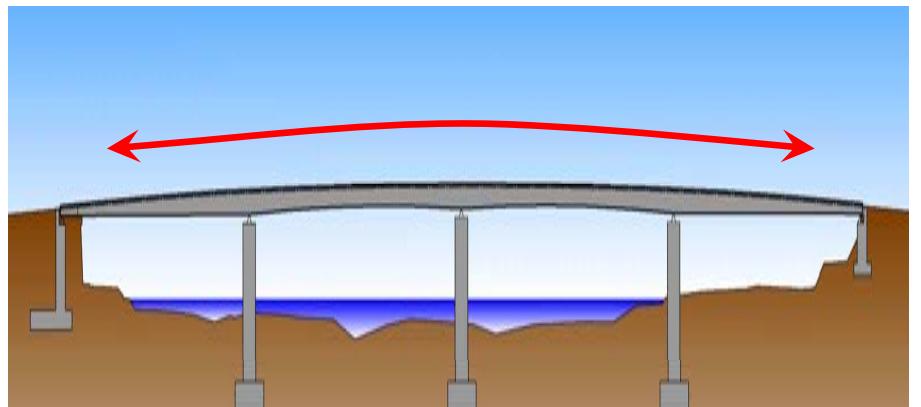
■ 材質・形状

- ・経年変化後に品格を失わない仕上げ材として、**石材**を使用します。
- ・外からの橋梁の見た目（サイドビュー）を損なわない**壁式**とします。
- ・路線の格や橋の規模に見合った、大きさが求められます。



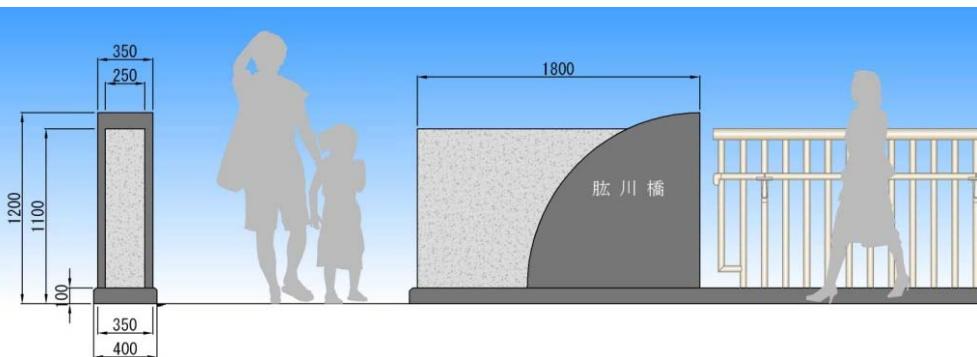
■ 1案【太鼓橋となる橋のサイドビューをイメージ】

モチーフ



▲緩やかな円弧を描く橋のサイドビュー

太鼓橋の始終点を端的に現わす、円弧によって收める形状
(仕上げの違いにより飽きのこない印象)



■ 2案【歴史の継承（周辺の石垣）をイメージ】

モチーフ

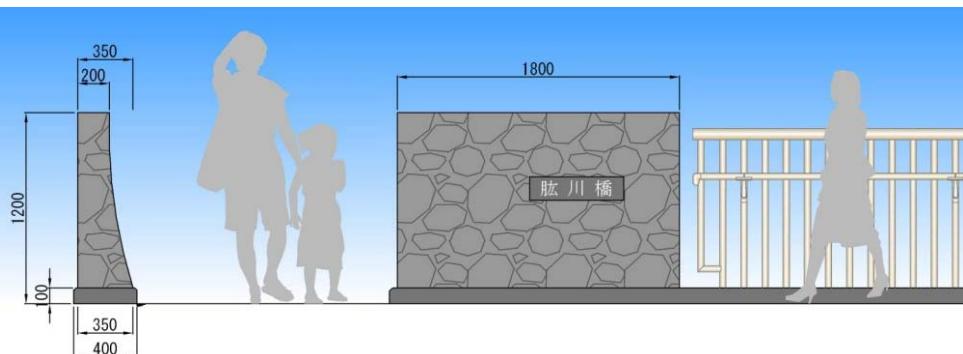


▲大洲城



▲修景護岸

背景となる大洲城や修景護岸に馴染む石垣
に同調させた形状



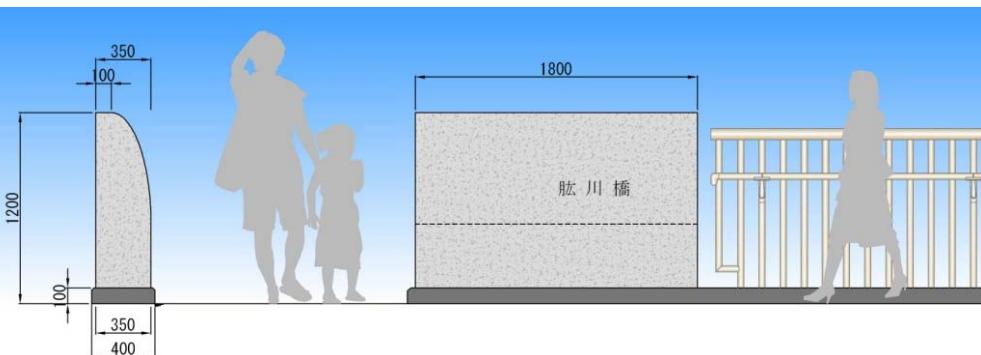
■ 3案【高欄形状に合せたイメージ】

モチーフ



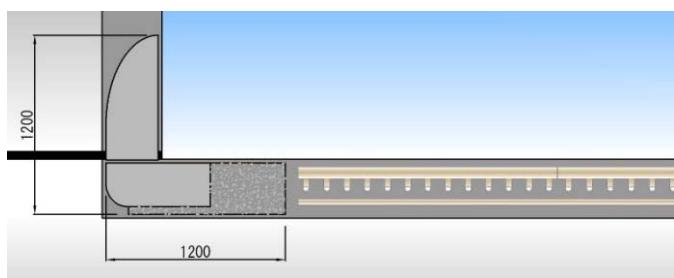
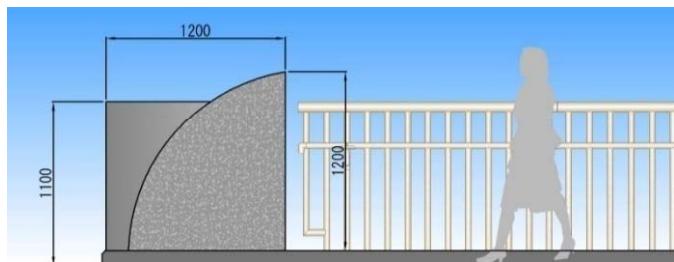
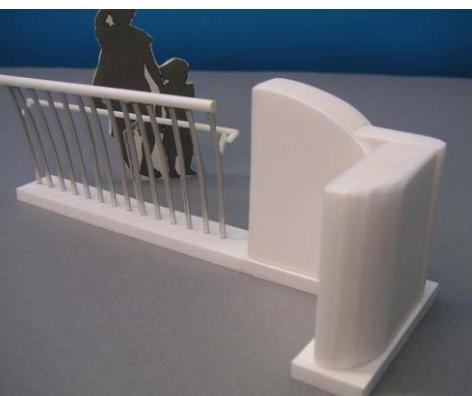
▲舳先のかがり火を吊るすす竹

高欄デザインと馴染みの良い、曲線を主体とした柔らかい形狀

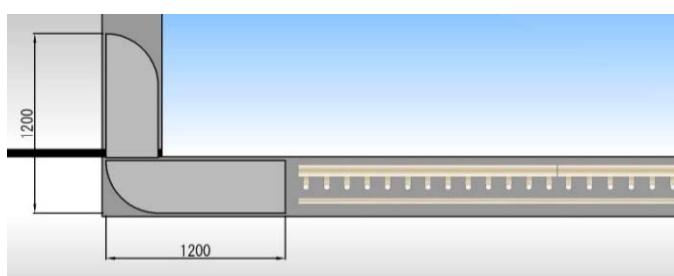
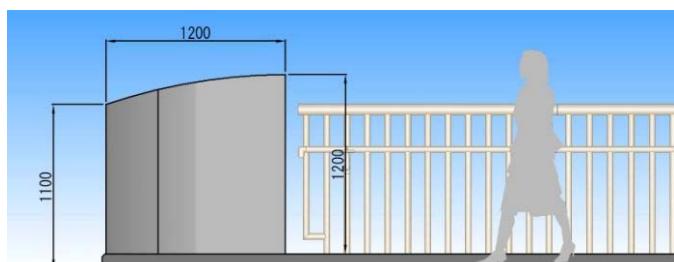
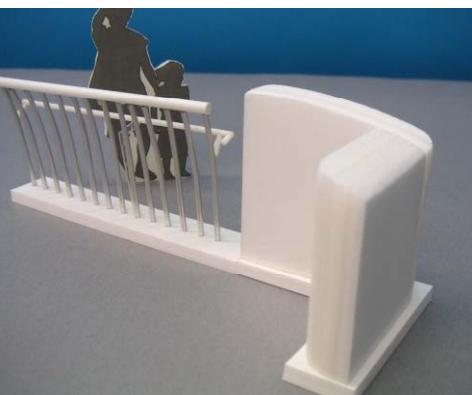


※ 正方形の場合のスタディ（円弧で収める1案の発展形）

■ 4案

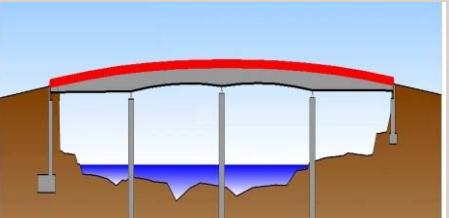


■ 5案



縦横比を短縮した場合でも、存在感を高めることは可能ですが、
街の中心を流れる河川橋の親柱としては、小さい印象を受けます。

■ 比較

	1案 橋のサイドビューをイメージ	2案 歴史の継承（石垣をイメージ）	3案 高欄形状に合せた	
モチーフ				
イメージ				
4案	5案		<p>裏からの見え方や 周囲景観との馴染 みから1案を推奨 します。</p>	
イメージ				<p>裏からの見え方や 周囲景観との馴染 みから1案を推奨 します。</p>

§ 3. 街路デザイン【参考】

街路デザインは大洲市のまち並み整備事業の中で検討していくため、
ここでは、大洲市へ提示しているデザイン案をご紹介します。

■ A案 【沿道のまち並みを引き立てる案】



歩道舗装

- ・沿道を引き立てる無彩色
石灰石を使用した
アスファルト舗装



■ B案 【道路を舞台に、にぎわいを創出する案】



歩道舗装

- ・木材と調和し暖かみある
天然砂利による
脱色アスファルト舗装



■ C案 【城下町としての風格を演出する案】



歩道舗装

- ・城下町に相応しい質感の
石貼り舗装



■ 比較

	A案 沿道を引き立てる案	B案 賑わいを創出する案	C案 風格を演出する案
イメージ			
舗装	<u>アスファルト舗装</u> (石灰石使用ショットブラスト掛け) <ul style="list-style-type: none"> ○掘り返し部分が目立ち難く、美観維持に効果的 ○工法自体が特殊なものでないため、復旧舗装時に採用しやすい 	<u>脱色アスファルト舗装</u> <ul style="list-style-type: none"> △掘り返し時に同じ材料を使用する場合でも、継ぎ目などが目立ち易い 	<u>石貼り舗装</u> <ul style="list-style-type: none"> △掘り返し時の舗装にて、同じ石材を確保できない場合、美観維持に支障がある
経済性	低	中	高

維持管理と経済性から評価して、今後決定して参ります。

■ 誘導ブロックの設置について

- ・ 将来は国道56号がバリアフリーロードに指定される可能性があるため、連続的に誘導ブロックを設置します。
- ・ 誘導ブロックの設置においては、誰でも認識できるようにベース舗装と規定の輝度比（2.0以上）を確保※する必要があります。
(アスファルト舗装との輝度比が確保しやすい黄色が標準色です。)

※高齢者、障害者等の移動等の円滑化に関する法律（通称：バリアフリー新法）

街並み景観を検討していく上で、誘導ブロックの色彩も検討対象とすることができます。



▲縁取りの例
必要以上に際立ち、
強い印象を与えていた。



▲黄色以外の例
輝度比を満足するためには、
黄色以外の選択も可能です。

※ブロック色の検討【案】

A案

黄色



B案

黄色



C案

黄色



ダークグレー



こげ茶



こげ茶



※材料や表面仕上げによって数値が異なるため、実験にて確認の必要があります。
また、色彩決定は、関係機関のご意見を踏まえた計画が望まれます。

※ 大洲市の取り組み

肱南まちづくり推進協議会

発展的解散・再編成

区長中心⇒中小事業者代表等を中心

肱川橋周辺まちづくり推進協議会

(設立予定)



地権者会議

(地権者代表会)

(設立未定)

※設置の必要性も含め検討中

活性化会議

(中小事業者の会)

2010.10.15発会

※地元主導の自主的設置
大洲市支援窓口：都市整備課
商工会議所オブザーバー参加

生活・文化会議

(まちづくり関係組織代表・

推薦会員の会)

2010.10.29発会

※市の呼びかけによる設置
大洲市担当窓口：都市整備課

第3回 肱川橋周辺まちづくり検討委員会 議事録（概要版）

日 時：平成 23 年 7 月 28 日（木）

13:30～15:20

場 所：大洲河川国道事務所 第 2 会議室

出席者：委員 11 名ほか

開会

議事

主催者挨拶

- ・肱川橋架替事業としては、平成 21 年度に第 1 回・2 回委員会を開催したのち、これまでに測量など工事に向けての準備を進めてきた。また、平成 23 年度から肱南地区での歩道整備事業、交差点整備事業を進めることとなったため、橋梁架替事業と一体となって進めていきたい。
- ・肱川橋は単なる土木構造物ではなく、大洲市の観光の要であるため、「まちづくり」や「景観」に配慮して、事業を進めていく。

委員紹介

委員長挨拶

委員長

- ・本日の第 3 回委員会において、肱川橋の景観デザインが決定されることを期待する。
- ・肱川橋の架け替えにおいて、地域の皆さまの意見を聴くことによって、地域のアイデンティティのあり、子供たちが愛着を持って渡れる橋のデザインとしていきたい。

1. これまでの委員会のおさらい

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 3～18 の説明】

2. 橋梁デザイン

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 20～34 の説明】

3. 街路デザイン【参考】

事務局

【「第 3 回説明資料」P. 35～41 の説明】

大洲市都市整備課 武田課長補佐

- ・肱川橋架け替え事業や歩道整備事業を機に、良い環境を作りたいと考える有志によって、まちづくりの話し合いを行う会を設置している。
- ・事業が完了する 10 年後程度を見据えた「まちづくりの新しい方向性」を作るため、1～2 年で基本的なまちづくりのプランを造ることを目的としている。
- ・想定される地権者からは、工程表を示してもらいたいという意見があった。
- ・また、本事業と合わせて、人が集まる場所の提供や、大洲にゆかりのある人物の案内板の設置について要望を受けている。

4. 質疑応答

桁下の見え方

委員長

- ・「桁下の見え方」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

A委員

- ・(パネルなどを設置しない) 1案に賛成する。私案であるが、目立たないようにするだけではなく、色彩の工夫により桁下のアクセントとすることが考えられると思う。

B委員

- ・添架管は、メンテナンスしやすい構造であるべきであるため、1案に賛成する。

C委員

- ・1案に賛成する。
- ・橋脚の支承部には隙間があるため、鳥の巣などにより、美観を損なわないような対策が望まれる。
- ・添架管についてはメンテナンスが重要である。桁下については、観光客への紹介を目的に河川の遊歩道にサインなどを設置することはあるが、桁下の添架管はアクセントとしての着色するのではなく、存在感を抑えた1案が良いと考える。

事務局

- ・鳥の巣等の対策については、ネットの設置が考えられるが、景観に配慮した本橋の計画としては望ましくないため、ネット以外での防鳥対策等は検討できると考えられる。

B委員

- ・添架管は、左右4箇所の桁間以外にも設置される予定はあるか確認したい。
- ・また、具体的にはどの様な色彩となるのか。

事務局

- ・添架管の設置によって荷重が増えることになり、橋梁構造にも影響するため、現在のところ追加の設置予定はない。
- ・添架管の色彩は、亜鉛メッキなどコンクリート桁に近いグレー系を推奨案としている。

D委員

- ・1案に賛成する。
- ・添架管の色彩については、大洲の風景にマッチして、桁下から見た際に楽しめるような色であっても良いと考える。また、橋梁の構造が分かるような、見た目が望ましい。

E委員

- ・肱川橋は「鵜飼い船」でも紹介される街の中心の橋であり、桁下から視点があることも特徴である。隠すだけではなく、デザインを工夫してほしい。
- ・橋脚の量水標が目立つため、新橋については目立ち過ぎないデザインとしてほしい。

委員長

- ・量水標は本会の話題ではないが、重要なご意見であり、私も同感である。
- ・委員の方々のご意見をまとめると1案が望ましいと思われる。色彩については、日照状況等によっても見え方が違うため、専門家の意見に従うことが良いと考える。
- ・委員会としては1案を採用し、色彩の判断は事務局に委ねることとする。

水位観測所デザイン

委員長

- ・「水位観測所」に関連して、案によって考え方方が異なるので、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

C委員

- ・隣接する民地とのウォールについて、1案の場合は四阿の屋根材と統一するべきと考える。

事務局

- ・洪水時の作業性とは、係員が観測などに際して、雨除けがあることで各種作業が遂行しやすいしやすいことを意味している。3案は、荒天時の作業性が他案に劣ることを示している。

E委員

- ・1案のコロニアル瓦は、5～7年程度で退色し、10年以上では劣化による欠けも想定されるため、10年後は葺き替えが必要となることも考えられる。
- ・2案の日本瓦は、50年程度の耐久性があると言われ、コロニアル瓦に比べてメンテナンスの頻度が低いことなどから、2案が良いと考える。

A委員

- ・2案が良いと考える。

事務局

- ・大洲の街のゲート（玄関）であるため、市の景観計画に則った計画とすることが重要と考えている。

委員長

- ・1案と2案については、初期コストは異なるものの、メンテナンスコストを含めると、大差は無いと言ってよい。
- ・委員会としては、2案を採用する。

親柱デザイン

委員長

- ・「親柱」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

F委員

- ・水位観測所が瓦屋根とするのであれば、大洲城などの歴史の継承という観点では、それらに調和する2案が良いと考える。

A委員

- ・4案と5案は、橋梁規模に対して小さい印象を受けた。
- ・歴史の継承をイメージした2案は、先進的な橋のイメージに合わないと思われるため、1案か3案が良いと考える。

B委員

- ・造り込み過ぎない自然な形状が良いと考える。

C委員

- ・橋梁自体がスレンダーな見た目であるため、水位観測所の瓦屋根も同様であるが、歴史に拘りすぎることは好ましくなく、2案や3案は重い印象を受けた。
- ・橋自体の存在との馴染みという面では、1案が良いと考えている。
橋梁のサイドビューを取り込んだイメージは良いが、そのデザインは単円ではなく緩やかな曲線が良いと思われる。

委員長

- ・例えば、子供たちの意見を参考にするなど、橋の架け替えに携わったという実感を、地域の方々に持ってもらえる仕組みで決定することも考えられる。

E委員

- ・提示案には、魅力がないと感じる。人物やまちの紹介を記したもの設置した案が良いと考えた。
- ・親柱の検討に当って、大洲市内の橋の親柱を確認した結果、周辺には2案の様な形状が多いと感じた。一方で1案の様な形状もあったものの、人工的な印象を受けた。
- ・子供たちの意見を聴くことも良いと思うが、まちづくり検討委員会であるので、大洲市の委員会等の意見を交えて最終決定することとし、今回委員会での結論は保留とされてはどうか。

委員長

- ・今回（委員会）での結論は保留することとしたい。
- ・大洲市の委員会において議論することといった選択肢を含めて、最終的には事務局で決定して下さい。

街路デザイン（歩道舗装）

委員長

- ・「歩道舗装」に関連して、委員の皆様からご意見・ご質問等を受け付けたい。

E委員

- ・肱南地区は、歩道が設置されていないため、現在は通学路に指定されていないが、この工事で歩道が設置されれば、肱北地区からの学生は国道沿いを走ることになると思われる。
- ・市役所横の県道は、車と自転車の接触事故が多いことが問題となっている。今回の歩道整備においては、通学の現状を踏まえた上で安全なものとしてほしい。
- ・具体的には、電柱、縁石の設置位置、市道交差点での右折車との接触事故を危惧する。

事務局

- ・歩道幅員が広がるため、車と歩行者の両者からの視認性は大幅に向上することになる。

委員長

- ・事務局は今後の設計において、今回の意見を踏まえた設計としてほしい。

C委員

- ・歩道舗装は、復旧等によって「継ぎ接ぎ」にならないように配慮することが重要と考える。
- ・点字ブロックは、輝度比に配慮しなければならないが、黄色が目立ちすぎるのは良くない。景観に配慮した地区であるため、黄色以外のブロックを是非採用してほしい。但し、天候のほか、実際の対象者の意見を伺うことは必ず実施しなければならない。
- ・A案は、通常のアスファルト舗装とどのように異なるのか確認したい。また、防護柵の塗装色は、歩道舗装によって変更することができるか確認したい。

事務局

- ・(A案の) 石灰石を利用したアスファルト舗装は、ショットブラスト加工を施すことで、白い石灰石が表面に現れるため、通常のアスファルト舗装より明るい印象がある舗装である。
- ・防護柵の塗装色は、グレーベージュとして、舗装の案によって塗装色を変更することは考えていらない。

A委員

- ・整備当初は、道路自体に存在感があるB案が良いと考える。
- ・しかし、(肱南地区は) どの様なまち並みが形成されるか現時点では分かりかねるため、まち並みが完成てきてから、変えていくことも考えられる。
- ・また、車両への注意喚起といった観点からも、歩道と車道は異なる色彩をしている方が、好みしい。

G委員

- ・現在、国道には上下水道の幹線は埋設されていないため、維持管理による頻繁な掘り返しによる「継ぎ接ぎ」の心配は少ないと思われる。

委員長

- ・歩道舗装は、まちづくり計画において決定して頂くことが望ましく、大洲市の委員会において議論して頂きたい。

その他

委員長

- ・その他、ご意見・ご質問等があれば受け付けたい。

E委員

- ・学校関係者からは、肱川橋北詰めの交差点の形状が危険であるという意見があった。本事業においては、分かりやすく安全な形状に改めて頂きたい。

G 委員

- ・右岸下流側に計画されている工事用進入路について、工事後の復旧計画を確認したい。
河川敷はイベントの会場となることが多いが、現在は河川敷への進入路が分かりにくい交差点形状となっている。計画においては配慮して頂きたい。

委員長

- ・皆さんのご意見等を伺いましたので、質疑応答をこれで終わりたい。

閉会